

平成 30 年度 吹田市第 2 次環境基本計画改訂版の進捗状況に係る

環境審議会評価（案）の概要

1 エネルギー

(1) 進捗状況

- 最新の平成 28 年度（2016 年度）のエネルギー消費量については、暑夏となった気候の状況等により、家庭部門及び業務部門で増加。産業部門においても、エネルギー消費量の大きい鉄鋼業等の製造品出荷額の増加により、増加。
⇒市域のエネルギー消費量が増加し、温室効果ガスの排出量についても増加。
- 市民・事業者への節エネルギーや省エネルギー機器、再生可能エネルギーの導入についての啓発・誘導が実施されるとともに、市役所の率先行動としての節エネルギー、省エネルギー機器等への更新・導入、再生可能エネルギーの導入が行われている。

(2) 課題

- 市域で最もエネルギー消費量の割合が大きい業務部門の削減を進めるためには、公共施設において、率先して再生可能エネルギー及び省エネルギー機器等の導入や更新を進めるとともに、その成果やノウハウを市内の事業所へ情報提供を行うことで、導入促進を図る必要がある。
- 目標達成に向けて、「吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）」において定めた施策を市民・事業者へより広く周知し、着実に実行することが必須。

2 資源循環

(1) 進捗状況

- 市民 1 人当たりのごみの排出量は、大阪府北部地震及び台風 21 号の影響による災害廃棄物が大量に発生したため、増加。同様の理由により、リサイクル率は減少し、ごみの年間焼却処理量及び家庭系ごみの年間排出量は増加。
- 事業系ごみの年間排出量については、微増。
- マイバッグの持参率については、北摂 7 市 3 町の自治体と食品スーパー 9 社でレジ袋無料配布中止を趣旨とする協定を締結したことから、持参率が大きく増加し、目標値である 60%を達成。

(2) 課題

- 目標達成に向けて、「吹田市一般廃棄物処理基本計画 後期改訂版」に基づき、食品ロスの削減、雑がみ等の資源ごみの分別排出の啓発、溶融スラグの資源化促進、事業者への指導・啓発の充実、使い捨てプラスチックごみの削減などの取組を通じて、更なる市民・事業者の意識の向上及び環境に配慮した行動への誘導を図る必要がある。

3 生活環境

(1) 進捗状況

- 大気中の二酸化窒素濃度及び河川 BOD については、環境目標値達成率 100%を達成。
- 吹田駅周辺及び南吹田駅周辺が新たに環境美化推進重点地区に指定。

(2) 課題

- 大気汚染や水質汚濁などの環境汚染に適切に対応するため、きめ細やかな規制や誘導、啓発を進める必要がある。
- 特に夏場における省エネルギーを推進するとともに、建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化など、地域特性に応じた具体的な施策や取組を進める必要がある。

4 みどり

(1) 進捗状況

- 「木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合」が増加し、目標値を達成。
- 「公園・緑地の利用しやすさ満足度」についても増加。
- 都市公園面積の増加により、市民 1 人当たりに対する都市公園面積が増加。

(2) 課題

- 「吹田市第 2 次みどりの基本計画 改定版」に基づき、質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要がある。

5 都市環境

(1) 進捗状況

- 「まちなみが美しいと感じる市民の割合」、「住み続けたいと思う市民の割合」及び「鉄道・バスなどの公共交通網の便利さ満足度」が増加。
- コミュニティバス 1 便当たりの乗車人数については横ばいで推移。

(2) 課題

- 移動経路のバリアフリー化率については増加傾向にあるが、目標値達成が厳しい状況にあることから、加速度的に取組を進める必要がある。

6 重点プロジェクト

(1) 地球温暖化対策の推進

- 大学と連携した持続可能な社会構築のためのワークショップを、現在策定作業中の第 3 次環境基本計画に関わるテーマで開催。
- 公共施設における再生可能エネルギー比率の高い電気を供給する小売電気事業者からの電力調達の対象施設を拡大。
- 市民・事業者との連携のもと、地域特性に応じた施策や取組による低炭素まちづくりを展開するとともに、公共施設における LED 照明等の省エネルギー機器や再生可能エネルギーの導入を加速させる必要がある。

(2) ヒートアイランド対策の推進

- 環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】について、ヒートアイランド対策に関する取組項目を増やし、より具体的な対策を示すようにすることで、取組の強化が図られている。
- 建築物・道路・駐車場の蓄熱抑制化に努めるなど、長期的な視点に立った施策や取組の検討及び実施が求められている。

(3) 環境パートナーシップ（連携・協働）の推進

- 本市と能勢町との「地域循環共生圏」の構築に向けた取組を進め、本市と能勢町の連携の方向性の確認のための確認書を交わし、能勢町産材等の利用推進の土台となる「吹田市木材利用基本方針」を策定。
- プラットフォーム組織の形成・拡充が図られるよう、支援や情報提供、情報共有を進める必要がある。

(4) 学校での環境教育（エコスクール）の推進

- エコスクール活動簿（環境の取組にかかるチェックシート）を活用した児童、生徒、教員の環境に対する意識の向上が図られている。
- みどりのカーテンやビオトープ、学童農園など実践的な取組も実施。
- 教育部門や環境部門をはじめ、関係部門による連携を強化しつつ、更なる取組を展開する必要がある。

(5) 地域における環境教育の推進

- 廃油石鹸作り、ごみの分別方法、みどりのカーテン講座などの地区公民館講座やすいた環境教育フェスタが開催されている。
- 学校や地域で環境保全活動を実践する人材の育成に向け、幅広い世代を対象とした「すいた環境サポーター養成講座」を開催し、新たに 15 名が修了。
- 市民が参加しやすい実践的な講座を企画・開催するとともに、環境活動を実践する NPO 団体等への支援及び人材の育成に取組む必要がある。